風土会　　会　報（2009年９月）No.15

♪　♪　♪　♪　♪　♪　♪　♪　♪　　文責　　柴田　悦子

第 15 回学習会を，平成 21 年 9 月 25 日（金）19：00 ～ 20：00 福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

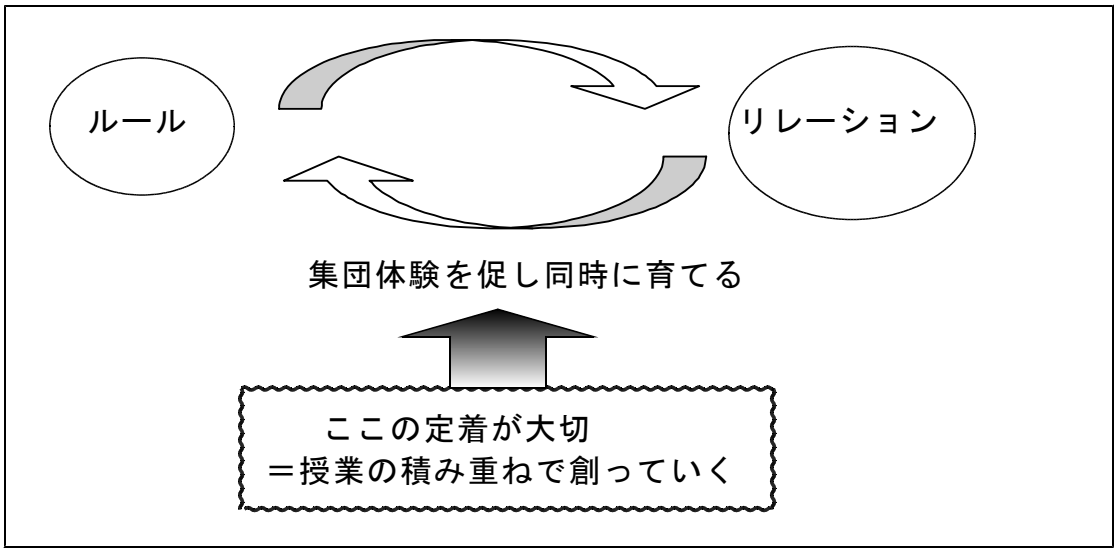
第 15 回目の内容
講師　重枝一郎先生（千代中学校　指導教諭）
1　ＧＷＴの背景にあるもの
2　実践ビデオ紹介
3　エクササイズの体験活動

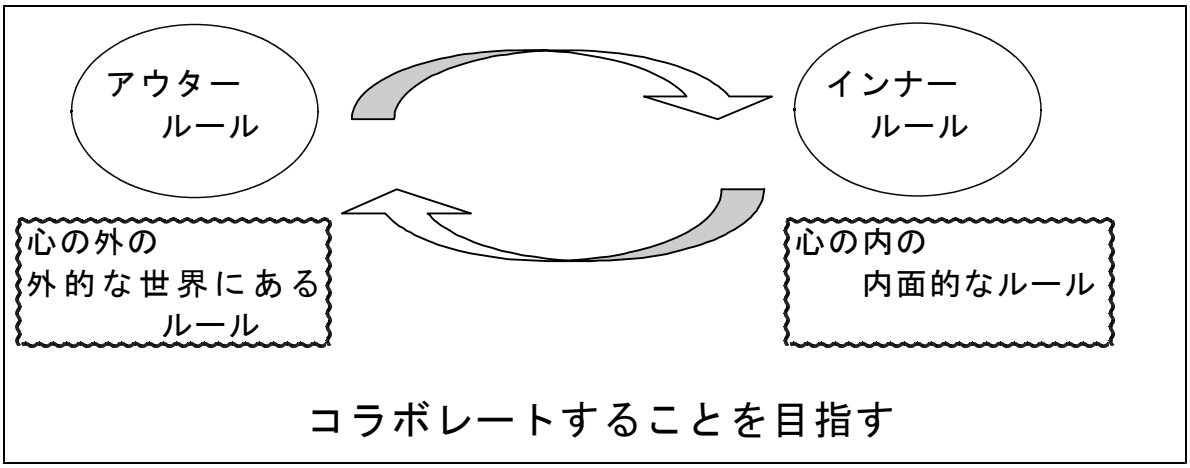
1　ＧＷＴ（グループワークトレーニング）の背景にあるもの

３つの気づき
・協力のよさ
・他者のよさ
・自分のよさ

授業のベース

・授業規律の暗黙化
・気づいたことを実践する意識化・日常化





※押しつけられていることを意識しつつも不快感のないものとして受容され，自然な形で受け継がれていく（価値の多様化の時代・一元的な規範の確立は難しい・規範の内面化を図る工夫）

ＧＷＴ・・・集団・体験：相互作用を重視した学びや創造の場（ワークショップ）

このような場をデザインし、活性化するようなかかわり（ファシリテーション）
それを担う教師（ファシリテーター）

「意味ある時間」を大事にする「場」づくり＝その場にいる人の時間を大切にする

効果的な学びの場とは（ちゃんと参加しないと自分のためにもみんなのためにもならない）（ストレッチゾーン）

①本音が言える
②わからないと言える
③FBシステムがある

⇨ ＧＷＴ＝授業＝研修会

（※ＦＢシステム＝フィードバックシステム）

解　説

「ＧＷＴの背景にあるもの」

○実践を理論化する意義

平成 21 年 9 月 16 日に福岡市立千代中学校の研究発表会が行われました。研究主題は「教師・生徒が共に誇れる千代中をめざして～生活規律の確立と人間関係づくりを通した社会性の育成～」です。研究は「生活規律の確立」と「人間関係づくり」を両輪として相互作用させ，社会性を育む教育活動を組織的に行ったという内容です。「生活規律の確立」と「人間関係づくり」が相互に作用したときに，生徒集団には一定のルールが生まれ，質の高い集団となり社会性が育まれます。教師・生徒が共に効果を実感できるような具体的な方策を，授業と体験活動を関連づけながら積み上げていったという説得力のある発表でした。

この研究のポイントである「生活規律の確立と人間関係づくり」の関係は，人と関わるときのルールと親しい人間関係（リレーション）を集団に確立させると，自分の欲求とみんなの思いとのバランスをとることができ，集団に自分らしく参加することを学べるようになるということです。また，生活規律の確立とは，①他者とかかわる際のルール　②集団生活を送るためのルール　③集団で活動するためのルールの，個人と集団での習得です。

これらを定着させるために，教師はビジョンをもって計画的に活動を仕組む必要があります。下記の①～④のように段階的に，互いに支え合う関係が築かれます。

① ルールに従って楽しく活動する。
② ルールの効果を実感する。
③ ルールを守ると人間関係（リレーション）もできてくる。
④ 人間関係（リレーション）はルールを守らせる。

学校生活の大半は授業です。千代中学校では全職員の共通理解のもと，すべての授業で授業規律の確立と共感的人間関係を育むチャレンジを行っています。それは「教科」という枠組みをこ

える発想，つまり「全教育活動」を通しての実践です。教師一人一人のきめ細かな個別指導や学校全体で生徒にルールを守らせる徹底した生徒指導を基盤にして，人間関係づくりの授業を全校で実施することによって，相乗効果として大きな成果を上げることができています。つまり，組織的に生徒指導を行うことと，人間関係づくりの視点を学級活動を中心に，学校の教育活動全般に取り入れていったことの相互作用が機能したということです。この取組は，生徒の価値観を変化させています。単にルールを守ることから，ルールを尊重する事へ。自己中心的な人との関わりから，他者を認める人間関係へ。

このようにして，ルールや望ましい人間関係づくりに対する意識が高まり，社会性が育ち，学校生活が安定し，何事にも前向きに取り組むことができるという好循環を生み出しています。ここでいう「社会性」とは，子どもたちが大人になり社会生活を営んでいくために必要な，コミュニケーション能力，実践力，社会適応，手段適応，規範意識，将来展望性などに焦点を当てた諸能力や資質の総体です。さらに社会性を構成する９つの要因として，コミュニケーション能力，集団参加能力，アサーション，実践力，共感性，規範意識，将来展望性，基本的生活習慣，自尊感情をあげています。これらの観点を指導実践のねらいに位置づけて，指導方法を具体化した取組がなされています。

全職員で共通実践を行うにあたっては，各教師が場当たり的に「教師の勘」で取り組むのではなく，筋の通った取組が必要です。それはビジョンのある実践です。そこに「理論」が必要になるのです。「理論」とは「法則」のようなものです。ある普遍性のあるものです。しかし人間相手の教育の世界では，それがすべてにあてはまることはありません。修正を加えたり，振り返りながら実践することが必要となります。「理論」とはスキルではなく，実践の根底に脈々と流れる「本質的」なものです。それを共有することこそが，「共通理解・共通実践」を支えるのです。

例えば「生活規律を確立する生徒指導」とは，具体的にどのようなものなのか？その本質とは何なのか？・・・・・・・

生徒指導は一般的に，自己指導能力の育成であり，「一人一人の生徒の人格を尊重し，個性の伸長を図りながら，社会的資質や行動力を高めるように指導，援助するもの」と定義されます。「単なる問題行動への対応という消極的な面にとどまるものではない」のです。（新学習指導要領解説　総則編　平成 20 年 7 月）

この定義をふまえて具体的にどう取り組むのかが，教師に求められます。千代中学校では，社会的資質や行動力を広義的に「躾（しつけ）」ととらえ，日々の生徒指導を実践するにあたり「自己決定の場を与える」「自己有用感・自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」という生徒指導の３つの機能を念頭に置いて取り組んでいます。特に共感的な人間関係を育成する中で，生徒の良い所をほめ，悪い所は正させるというフィードバックを重点的に行っています。それを，各教科の「授業」を中心として教育活動全体を通して共通実践しています。

このように教師が実践の裏に隠れた大きな理論を自覚していることはもちろんですが，そのことを生徒や保護者にも伝えています。理論を伝えることは，教師のねらいに気づかせることなので，実践のねらいがさらに深く根付いていくことになるのです。また，実践を行った後で「振り返り」を行い，気づいたことが「理論」になっていきます。つまり，「理論」「ビジョン」「実践」という 3 本柱を教師がいつも意識し，生徒や保護者にも伝えていくことが，大きな教育的効果を生んでいるのです。

千代中学校の研究主任である重枝先生は，今回「理論」としてまとめて発表したことに，大きな意義を感じています。福岡市教育委員会の指定を受けていなかったとしても，日常的に同じ取組をしていただろうと振り返られています。しかし，発表するにあたって，日常的な取組を理論化したことで，取組の効果の背景が明確になったことに意味があるのです。取組のベースに流れているものこそ，教育の本質であり，それは単なるスキルではありません。その背景を学ぶことこそが，この「風土会」（学習会）での一番の願いでもあるのです。

○ルールの暗黙化

ＧＷＴなどのエクササイズをやれば，生徒は「協力のよさに気づく」ことができます。シェアリングを通して「他者のよさに気づく」ことができます。シェアリングしたことを発表すると，友達が自分を認めてくれたり評価してくれたことが明らかになります。それは「自尊感情」を高

め，「自己盲点」に気づき，「自己理解」を深めることとなります。このようなエクササイズを積み重ねることが生徒の意識を変え，日常化につながります。各教科の授業のベースになってきます。徐々にルールが「暗黙化」されてくるという好循環を生みます。ＧＷＴをやって「あ～，楽しかった」ではなく，「ルールの暗黙化」が定着するように教師が働きかけていくことが，ねらいでありビジョンです。「ＧＷＴをしたらクラスが浮ついて，よけい悪くなるのでは？」と心配して，なかなか取り組めない状況があると聞きます。しかし，先回りして心配するよりもまず「やればいい」「やってみよう」というチャレンジが大切です。やらないと何も変わりません。やりながら教師が仕込んでいくのです。積み重ねることで，少しずつ効果があらわれます。じわじわと効いてきます。

○アウタールールとインナールール

アウタールール：心の外の外的な世界にあるルール
インナールール：心の内の内面的なルール

「ルールを守る」ということには，「アウタールール」と「インナールール」の相互作用が大きくかかわっていると考えます。「アウタールール」というのはいわゆる「ルール」のことで，心の外の外的な世界にあるルールです。「インナールール」というのは心の内の内的なルールで，「リレーション」が大きくかかわります。「アウタールール」は集団生活の規律とおきかえられます。これは強制的な感じをうけ，人は逸脱，反発しようとします。ところが「インナールール」が育っていると，例えば先生の話を聞こう，友だちを信頼しようなどの気持ちが心のルールとしてあり，アウタールールを押しつけられていることを意識しつつも，不快感のないものとして受容し，自然な形で受け継がれていくと考えます。つまり，強制的にルールを守らせる指導から，ルールを尊重し守らせる指導への転換が大切なのです。その工夫をすることが教師の力量です。

「ルール」があって，強制的に教師がやかましく言って守らせるのではなく，「インナールール」として「暗黙化・定着化」させるためには，教師が生徒をよく見て感じて，生徒の状況に合わせた働きかけをする必要があります。状況によってはアウタールールを強めたり，先輩をお手本として自然と 2 年，1 年に伝統として受け継がせるなどです。それがやがて「学校風土」になっていきます。そのために理論づけ，定義づけ，定義に磨きをかけていきます。それを生徒にも話しながら，全体の質を上げていくのです。

○意味のある時間

「意味のある時間」とは「効果的な学び」を実感できる時間です。そのためには，「集団の中で個が育ち，個の成長で集団が育つ」といった雰囲気が必要です。授業を「意味のある時間」にするためには，教師の意図的な働きかけと効果的なフィードバックが重要になります。生徒を活性化させ，多くの気づきを得させるような，教師のファシリテーターとしての働きかけです。授業において，どれだけ生徒を「ゾーン」（集中）に入れられるかも教師次第です。生徒をどれだけストレッチゾーンに入れられるか（伸ばせるか），そのための「場」を教師も生徒も意識する必要があります。「意味のある場」が「意味のある時間」を生み出すのです。

ＦＢシステム（フィードバックシステム）を教師が効果的に活用すれば，授業でもＧＷＴでも「失敗」と思えることが「失敗」ではなくなります。効果的なフィードバックは必ず「気づき」をもたらします。その「気づき」こそが，次につながる前向きな学びとなっているのです。

これは，授業における生徒の変容だけではなく，校内研修における教師の学びでも同じ事です。研修の中で「気づき」を得られれば，それは「意味のある時間」となります。「意味のある場」が「意味のある時間」を生み出し，そこでの「気づき」を日常につなげることで，学びの日常化・暗黙化に高まります。それが「行動変容」を生むのです。このような「意味のある場」「意味のある時間」を積み上げることが，生徒にとっては「学力・社会性の向上」，教師にとっては「指導力・授業力向上」につながります。この「風土会」も「意味のある場」「意味のある時間」を目指しています。

２　実践ビデオ紹介

「先生ばかりが住んでいるマンションⅡ」

☆ねらい

○学級の発展を考え，お互い協力し合う雰囲気を醸成する。
・グループの単位が大きくなっても，小グループでの気づきを生かそうとする（実践力）
・協力することの大切さに気づく（集団参加能力）
・達成感をみんなで共有する（共感性）
・自分の考えを相手に正確に伝え，相手との共通理解を図る（コミュニケーション能力

☆授業の流れ（展開）

生　徒　の　活　動　と　内　容	指　導　上　の　留　意　点
１　めあてと内容の説明 ○机を廊下に出しておく。クラス全員がいすに座り，半円形になる。 ○めあて	・授業規律を整え，エクササイズを行う雰囲気づくりをする。
大きなグループワークトレーニングでも話し合いや認め合いができるようになろう。	
２　ウォーミングアップとその振り返り 『イメージボードゲーム』 ３　インストラクション ○課題の説明を聞く。 ○学級委員は情報カードを配布する。	・クリップボードとイメージボードゲームのシートを配布する。（Ｔ１） ・「聴く」ことの難しさを意識させる。また授業規律について意識させる。 ・マンションの図は教師が板書しておく。
「先生ばかりが住んでいるマンション」が２棟あります。どの部屋にどの先生が住んでいるのでしょうか。クラスのみんなで話し合ってください。	
○ルールの説明を聞く。	・40 枚の情報カードであるため人数で複数枚持つ人が出る。
カードに書かれていることは言葉で正しく伝えましょう。決して他の人に見せたり，取り替えたりしてはいけません。時間は 25 分です。	
４　『先生ばかりが住んでいるマンションⅡ』にクラス全員で取り組む。 ○メンバーは自分の持つ情報をタイミングよく発言していく。 ○リーダーはみんなの発言を板書しながら正解をつくっていく。 ○リーダーは一人一人の発言に対して思いやりをもって対応する。 ○メンバーは思いやりをもってリーダーや他のメンバーの発言に反応する。	・誰がまとめ役（リーダー）になるのかしばらく見守る。動きがない場合は助言する。 ・時間の延長はないことを知らせる。 ・観察シートで個人の動き，グループの動き，個と集団のかかわり，集団全体の雰囲気などをチェックする。（主にＴ１は全体，Ｔ２は個を見る）（対角線ポジション） ・うまくいかないときは，教師の方からフィードバックし指摘する。

○正解を確認する。 5　シェアリング ○質問事項に答える。 6 まとめ ○発表する。	・時間がきたら終わる。 ・正解を知らせる。 ・人間関係のトラブルがあった場合はねらいを振り返り，全体の問題として指導する。 ・発表はこの演習から学んだことなど自由に発表させる。 ・まとめは活動全体を見て，教師（Ｔ１，２）が感じたこと，クラスやグループなどの集団生活に大切なことなどねらいに即してまとめる。

《ビデオの解説》

○「先生ばかりが住んでいるマンションⅡ」

千代中学校の研究発表会で行った授業と同じ内容です。このグループワークトレーニングの特徴は，クラス全員で行う上級者向けの内容であることです。班形態という小グループではうまくいっても，学級全体が一つの方向にまとまるには全員の協力が必要です。それは簡単なようで実に難しいことです。このＧＷＴを行うにあたって，イントロダクションで重枝先生はこんな語りをしています。もちろん黒板にはおなじみの図（ルールとリレーションの図）が書いてあります。

「班でやったことが，もっと広い世界で同じようにできなきゃいけない。世の中はこれです。全員が関わらないと，新たな気づきは生まれません。学級目標を決めたときはクラス全員が関わりました。一人で何かをするのであれば家にいればいい。人は人との関わりの中で成長するのです。必ず人と関わりなさい。それが学校に来る意味なんです。勉強だって学校に来なくても家庭教師をつけることだってできるでしょう。そうせずに学校に来るのなら，必ず人と関わって刺激を受け合いなさい。」

そんな話を聴いた後，さっそくＧＷＴ開始です。班で行うＧＷＴであれば，少人数なのでお互いの情報を言い合いやすいのですが，クラス全員となると，誰から発言するのか，どのタイミングで発言すればよいかなど，難しいものがあります。しかし，徐々に変化がみられました。それを体験させることに意味があるのです。そういう空気を吸わせておくことで，必ず気づきが得られるのです。気づきを得るようなフィードバックを，教師がタイミング良く行うことも有効です。最初から，みんなが自由に情報誌に書かれた内容を言い合う雰囲気は生まれません。最初はリーダーが「まず 1 番のカードから読んでください」という世界です。その様子を見ながら教師がタイミングを見計らって，生徒に声をかけたりフィードバックするのです。重枝先生は途中，「もっとちゃんとやりとりをしないと。」「学級委員が何も発言していない生徒に，『何か言ってよ』と促していたのはよかった。それがリーダーシップです。」「リーダーシップとメンバーシップを十分働かせて，１試合やりきれ」などと声をかけていました。それが生徒のモチベーションをあげ，集中力を高めていました。

演習　「先生ばかりが住んでいるマンションⅡ」
《体験活動の解説》

○デモンストレーション

ビデオと同じ内容のＧＷＴです。重枝先生は演習を始める前に，まずこんなお話をされました。「自分が生徒だったらとイメージしてください。自分の持っているカードの内容を発言したら終わり，という気分になるのですが，それではうまくいきません。ずっと全員が参加していないと，情報が確定しないのです。例えば生徒だと，一部の生徒はのってきていても，全体をみると微妙な温度差があります。クラスで話し合いをする時でも，一部の生徒や声の大きな生徒だけで決まることはよくあることです。リーダーは「こんなに早く決まった」と満足していたりします。しかし，大事なのはスピードではないということをリーダーにも気づかせなくてはなりません。リーダーにはスピードではなく，メンバー全員の姿や表情をみることを求めます。メンバーの中にはオープンに言えない生徒もいます。しかし表情を読んでうまくリーダーが発言を促せば，意見を言うことができます。そういう関係をつくることがねらいなのです。」

このようなお話の後，全体を２グループに分けて，演習を行いました。今回はいつもとは違って，この演習にたっぷり時間をかけました。重枝先生は，体験することで，先生達が自ら気づくことがあると考えたのです。いつもはこの「風土会」は時間ぴったりに終わるのですが，めずらしく時間を延長しての演習となりました。おかげで２グループとも答えにたどりつくことができ，達成感と満足感を味わいました。答えが合うことが目的ではないのですが，大人でも夢中になり集中した時間を味わったということです。それこそ「意味のある時間」を過ごすことができました。

○体験した感想

まず，全員に情報カードが配られました。リーダーを誰がするのか？そこからトレーニングが開始されています。お二人の方が名乗りをあげてくださり，ホッとした雰囲気の中で本編の開始です。しかし，確かに誰から話せばよいのか？悪い意味ではなく口火を切りにくいと感じました。それは，人数が多いから話しにくいというだけではなく，今，自分が発言すべきかどうか，タイミングを見計らっているのです。『リーダーの指示も尊重しなくては』『むやみやたらと自分ばかりが発言してもよくないな』『関連のある時にタイミング良く発言しなくては』など，いろいろなことが頭の中をかけめぐります。

ビデオで見ているときには気づかなかったのですが，実は生徒達もいろいろなことを考えているのだと，自分が実際に体験してみて気づきました。発言している時だけ積極的に参加しているというわけではなく，黙っているときも実は，いろいろなことを考えているのです。

発言をつないでいくのがリーダーの役目です。しかし，リーダーまかせにしていても，うまくいきません。情報をつないでいく時に，リーダーが勘違いをしたり，前に聞いた情報と違う方向に流れていったりと，さまざまな問題がでてきます。それを修正することがフォロアーにも求められています。これが最初に重枝先生が言っていた，「自分の持っているカードの内容を発言したら終わりという気分になるのですが，それではうまくいきません。ずっと全員が参加していないと，情報が確定しないのです。」ということなのだと理解できました。全員が情報の行方を見守りながら，自分の情報が正しく伝わっているか常に確認する必要があるのです。そうしないと，他の情報に気をとられて，前の情報が忘れられ間違った場所に移動されていることがあるのです。そのことに気づくことと，気づいたらそれをリーダーに伝えなくてはなりません。それをやらないと，情報が間違ってつながれていきます。また，ひとつの情報に対して，関連のある情報をすぐに伝えないと，せっかくの情報がつながれていきません。常に自分のカードを見ながら，いつ自分の情報を伝えるべきか考えておく必要があります。

実際，重枝先生のタイミングよい声かけのおかげで修正できた場面がありました。自分の伝え

た情報通りの場所に「先生カード」がおかれていないと気づいた方が「そこじゃない」とつぶやいた言葉を聞き逃さず,「そうそう」という重枝先生に促されて，その方がもう一度発言する場面がありました。「何か違うな」と思っていても，確かな確信があるわけでもなく，その場が違う話題に移っていると，なかなか発言がしにくいものです。それは，まじめに参加していないからではなく，その場の雰囲気を感じとっているからでもあります。しかし，自分の主張をすることが問題解決のために必要な場面もあるのです。「そこであってるよ。」と重枝先生がつぶやいた言葉を聞いて，その場がホッとする雰囲気もありました。ちょっとした教師の言葉が，意欲づけにもなるのだと実感です。集中力が要求されるゲームなので，ビデオの中で「１試合，やりきれ」と生徒に重枝先生が声をかけていた理由が本当の意味で理解できました。このように，実際に体験すると，実に深いゲームであることが実感できます。「体験」することで得られる気づきというのが本当にあるのです。

実際，なかなか答えがわからないとイライラしてきます。そんな時に，ナイスな発言があったり，それに対して盛り上がる雰囲気ができると場がなごみます。そういう雰囲気を生み出すちょっとしたやりとりや言葉が，実はすごく大切なのです。

また，リーダーの大変さと大切さもわかりました。リーダーがしっかりみんなの発言をつないだり，情報を正確に受けとめると，答えにたどりつきます。「これに関連する情報はもっていませんか」「まだ，自分の情報を言っていない方はいませんか」など，発言を促してもらえると安心して発言できます。このようなリーダーシップが与える影響は大きいのです。

リーダー側からすればプレッシャーも感じるでしょう。協力的な発言や意見には励まされ，安心感があり，逆にたいくつそうだったりイライラしていそうな人には圧迫感を覚えたりと，リーダーならではの苦労を感じ取ったと思います。リーダー役の生徒の苦労や思いを体験できたのではないでしょうか。

今回，目から鱗だったのは,「体験による気づき」の説得力の大きさです。ビデオで授業を見ているだけでは，気づかないことや見えていないことがあったのだということに，気づくことができました。自分が体験していなかったら，同じエクササイズをやっても，生徒の立場に立った声かけはできないだろうと思います。途中，難しくて挫折しそうになりながら，もう一度気を取り直して一人一人の情報をつなぎ，やっとのことで完成したという体験があれば，生徒にもあたたかな気持ちで接することができます。

今回，重枝先生が「体験」させることにこだわったわけが,「体験」してみてストンと腑に落ちました。貴重な体験をありがとうございました。今回の体験を「意識化」「日常化」したいと思います。

☆　今回の学習会のキーワード　☆

○授業規律の暗黙化
○気づいたことを実践する意識化・日常化
○アウタールール：心の外の外的な世界にあるルール
○インナールール：心の中の内面的なルール
○コラボレート
○規範の内面化
○「意味ある時間」を大事にする「場」づくり＝その場にいる人の時間を大切にする
○効果的な学びの場
○ストレッチゾーン
○ＦＢシステム（フィードバックシステム）
○実践の理論化
○社会性を構成する９つに要因（コミュニケーション能力，集団参加能力，アサーション，実践力，共感性，規範意識，将来展望性，基本的生活習慣，自尊感情）
○自己指導力の育成
○「自己決定の場を与える」「自己有用感・自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」
○３本柱「理論」「ビジョン」「実践」
○ルールの暗黙化
○定義し，磨きをかける力

♪学習会に参加された先生方の感想♪　（参加人数　３４名）

・「ゆっくりでいい，じわっと変わる」という言葉で少しほっとしました。そうですね。あせらずに，でもいろいろやっていきたいと思っています。「サイコロトーク」「ムシムシ教室の席替え」は子ども達にとって確かに何か新しい体験でした。少しずつ「風土」を変えていきたいと思います。千代中の発表会に行けなくて残念でした。校長がいたく感動していました。

・エクササイズを通して，リーダーの大変さ，班より全体でのエクササイズがどれだけ大変かがよく分かりました。できあがった完成したときの達成感は大人の私たちでも正直うれしいと思いました。失敗を通して学ばせることも必要で，失敗を通して考えることも多くあることが分かりました。まずはやってみることからスタートですね。

・このような会には初めて参加させていただいて，「なるほど」「おもしろい」と思うことがたくさんありました。「Are you in zone ?」という言葉の意味が少しわかったような気がします。ぜひ次回も参加したいと思いました。

・自分自身をフィードバックできる学習会でした。今，自分が受け持っている学級では「対等な関係」ができあがっていないので，今回学んだことを生かして生徒の関係づくりをしていきたいと思います。会報があるので，来れなかった時の分も勉強できて，とてもありがたく思っています。

・先日「先生ばかりが住んでいるマンションⅠ」をしました。今日「Ⅱ」をしてみて，すごい情報の量で，みんなで協力しないとできなくて難しいけど，子どもたちがどんな風にやっていくのかみてみたいと思いました。班という小集団だけでなく，クラスに広げてやってみたいです。その時だけで終わらないように日常化していけるようにしたいです。

・二学期制でもうすぐ新しい班になります。またＧＷＴをやってみようと思います。生徒同士の関わりを大切にしたいと思います。活動の後が大事なので，これからはそちらの勉強をしたいと考えています。

・ＧＷＴはいつも勉強になります。自分が生徒となってやることで，学級の中で活動させることができます。今回はクラス全体でやってみようと思っています。いろいろな行事を経てちょうどクラスがまとまりかけているので，やってみようと思っています。

・今日の演習は本当に大変でした！子どもたちで実際にやると本当に１時間かかりそうな気がします。でも，リーダーの声かけやお互いの協力体勢の大切さなど学ぶことの多い充実感のあるとても楽しいものだと思いました。まずは「マンションⅠ」etc.で基盤をしっかりつくりつつ，いつかはやりたいと思います。「マンションⅠ」はクラスでしてみました。今のクラスの実情に非常によくマッチしていて，子どもたちにとっても有意義な時間が過ごせたようです。ありがとうございました！

・実際に「先生ばかりが住んでいるマンションⅡ」をやってみるとすごく難しくて，根気のない生徒はくじけるかもな～と思いました。やる気のない生徒，のれない（わざと）生徒にはどう対応しているのでしょうか？先生達はやる気があるので，今日やったＧＷＴなども根気強くモチベーションを保って活動できますが，はみ出してしまう生徒にはどんな声かけ，ひきつけ方をしているのかな？と思いました。夏の校内研修会で，風土会のことを伝えたり，ＧＷＴを行ったりしました。また学んだことを実践に移していきます。

・ＧＷＴをクラス全員でさせるという発想をされるところが自分には考えつかないと思った。これができるクラスの雰囲気は何となくわかる。